

北埼玉2号棟が竣工

グローバル品質にも対応

高田製薬は、建設中の高薬理活性注射剤専用の北埼玉工場2号棟（埼玉県加須市）が竣工し、2024年2月の稼働に向けて準備を本格化する。約100億円を投じた2号棟には凍結乾燥機、無菌管理と封じ込めに最新機器を導入し、生産能力は高活性バイアル、一般無菌バイアル共に年間500万本超。増産需要に応えることに加え、グローバルな品質要求にも対応することで国際競争力の高い工場を目指す。

高田製薬

竣工式はきょう4日に
行う予定。同棟には、大
宮工場で生産する自社製
造販売後発医薬品など11
品目が移管される。長期
収載品の受託製造も行う。
新薬製造受託も行う。

べく営業を展開してい
る。海外向け生産も視野
にある。

今後、商用生産に向け
て製品ごとに品質規格に
適合する形で生産される
ことを検証するバリデー



高田社長

シオンを実施していく。
高田浩樹社長は「最新
機器を導入しており、当
面はレギュレーションが
変わることもあっても高
い品質の生産が可能だ。

大きな投資で身が引き締
まる思いだが、技術者に
とって最新機器を運用
し、自らの手でバリデー

シオンを、立ち上げる
ことで『自分たちの工
場』という愛着が生まれ
てくる。それはとても重
要なことだ。しっかりと
メンテナンスをして、高
い品質の製品を生産する
という意識が高まる」と

説明する。
新たな取り組みが動き

出す一方、製品の出荷状
況など足元の状況はどう
か。高田氏は「限定出荷品
目は順調に減っている」
と説明する。ただ、同社
が注力する小児科領域、
呼吸器領域などの製品生
産について、通常冬から
春にかけての需要増が、
夏でも感染症が流行し高
い需要が続いていること
で「増産しても在庫が増
えない」と明かす。今夏の
増産で在庫を増し、今シ
ーズの安定供給につな
げる当初の目算通りに進
んでいないという。

供給不安で各社とも増
産が迫られている中、同
社も増産に向け生産体制
の見直しを進めている。
増産が迫られる製品は
集中的に生産を行い、ラ
インが空いている日には

生産量の少ない製品を生
産し、土日は至急の生産
に備えて空けるようにし
ているという。包装単位
の集約も医療現場と相談
の上で進めている。勤務
体制を1交代から2交代
2交代から3交代とする
ことも検討している。

高田氏は「生産効率を
上げるには、当社の技術
と設備でなければ生産で
きない製品を自社で生産
し、代替可能な製品は生
産と販売を他社に任せたり、
撤退を検討したりする
ことも必要ではないかと
考えている」と話す。

効率化を図っても原材
料調達とエネルギーのコ
スト上昇は経営上の懸念
材料だ。原材料メーカー
もまた同様の環境に晒さ
れ厳しい環境にある。原

材料と製品が1対1の関
係にある製品は、原材料
供給が途絶えると製品供
給も止まるため、原材料
メーカーと密な意見交換
を心がけているという。

その中で同社は次の成
長へ布石を打つ。高田氏
は、「重点の小児科、耳
鼻科、呼吸器科、アレルギー
領域のシェアを高め
ていくと共に、製品ライ
ンアップの充実も図って
いきたい。その製品は付
加価値を高める。具体的
に開発をしているものが
あり、数年後には順次披
露したい。また昨年行っ
た（耳鼻咽喉科領域に強
い）セオリアファーマと

同社は、本社のある埼
玉県さいたま市から研究
開発型ものづくり企業で
あることを認証する」さ
いたま市リーディングエ

「医療用医薬品を中心と
しつつも、それ以外に患
者さんやその親御さん、
医療従事者が困っている
ことに対するサービスを
提供したい」とし、その
ための検討は随時行っ
ているという。

同社は5年後の28年に
設立100周年を迎える。
高田氏は、その大きな節
目を見据え「設立100
年に向け成長、飛躍して
いきたい。そのためには
まず業界として課題にな
った安定供給、品質に信
頼を得るための取り組み
は今後もしっかりと継続
する。そして、付加価値
のある製品を提供し、評
価をいただいて成長し続
ける。そうすることで持
続的に供給できる体制を
より強いものにし、社会
に求められる企業であり
続けられるように取り組
むと力強く宣言する。